

## 5. 遺伝子、クローン技術

- 遺伝子、**DNA**が大衆文化の中に定着
  - 天才遺伝子、暴力遺伝子、不倫遺伝子？
  - キリスト教の魂に相当する役割を果たしている。
- クローン人間の可能性
  - クローン人間作製サービス: **clonaid**
- 倫理的課題
  - 人間の「**かけがえのなさ**」と現代社会の特質としての「**代替可能性**」

45

## ヒトゲノム解析計画

- **1980**年代半ばに始まった、ヒトのゲノムの構造と機能を解明しようとする国際プロジェクト。
- **2000年6月26日**、米国のクリントン大統領(当時)は記者会見を行い、日米欧の国際研究グループと米セラ・ジェノミクス社がそれぞれ「ヒトゲノム」の解読作業をほとんど完了したと発表した。

46

## 遺伝子の解明がもたらすこと

1. 人間は生まれたときから平等ではないことを明確に語られる。
2. 「内なる自然」としての人間の身体がバイオテクノロジーのフロンティアとされる。
3. **DNA**を操作することによって人間性そのものを操作することが可能となる。
4. 病気の概念が変容する。

47

## 6. 安楽死・尊厳死

- 安楽死
  - 筋弛緩剤などの薬物注射によって生命を絶つこと。
- 尊厳死
  - 回復する見込みのない病者が無益な延命措置をほどこすことをやめて、自然な死を迎えること。→リビングウィル
  - **日本尊厳死協会**

48

## 7. 脳死・臓器移植

- 臓器移植法の成立(**1997年**)
  - 「自己決定権」に基づいている。
- 当時の宗教界の反応
  - 仏教界: 本願寺、真宗大谷派、創価学会
  - その他: 大本(絶対反対の立場)
  - キリスト教界: 目立った批判はない。「隣人愛」、愛他主義(**altruism**)に基づく積極的肯定が目立つ。

49

## 改正臓器移植法(2010年)

- **2010年1月17日**より
  - 親族に対し臓器を優先的に提供する意思を書面により表示可能。
- **2010年7月17日**より
  - 本人の臓器提供の意思が不明な場合も、家族の承諾があれば臓器提供できるようになる。これにより、**15歳未満**の脳死者からの臓器提供も可能となる。
- 【参考】脳死になるのは**100人**の死者のうち一人程度。

50

## ドナーカード



## 8. ES細胞研究

- **ES細胞 (Embryonic Stem Cell)**
    - 神経や心筋など、体のあらゆる組織や臓器に育つ可能性があり、「万能細胞」とも呼ばれる。
  - **ES細胞の作製には、通常、受精卵(余剰胚)が用いられるため、中絶と同様、「生命の尊厳」を侵害しているという理由から、その研究に反対するグループも存在する。**
  - **iPS細胞 (induced pluripotent stem cell、人工多能性幹細胞)の樹立**
- 52